

環境法 国際ワークショップ

「所有と持続可能性：調和の模索」

クラウス・ボスルマン教授
(ニュージーランド / オークランド大学)

「空間計画と環境保全」

シャンドル・フロップ上級研究員
(ハンガリー / 国立公共サービス大学)

日時：2018年10月1日(月曜日)

会場：東北大学片平さくらホール

13:30 ~ 16:30 (13:00 開場)

定員100名 / 同時通訳付 / 事前申込不要

プログラム

- 13:00 開場
- 13:30 開会の辞
- 13:40 講演1(ボスルマン先生)
- 14:45 休憩
- 15:00 講演2(フロップ先生)
- 16:05 まとめ
- 16:25 閉会の辞
- 16:30 閉場

会場アクセス

片平キャンパス北門をくぐり
南へ向かうとロータリー右手に
見えるレンガ色の建物
「片平さくらホール」



お問い合わせ：東北大学法学研究科
担当：久保野 kubono@law.tohoku.ac.jp

「所有と持続可能性：調和の模索」

本講演は、西欧的概念である私有財産と、自然環境への責任の間にある、根源的な緊張関係を扱う。まず、両概念の歴史的発展を概観する。その後、ドイツ(大陸法系)とニュージーランド(英米法系)という二つの国家が、この両概念を如何にして調和させようとしてきたかについて論じる。そして、最後に、所有という概念を、自然資源の持続可能な利用のための権利に統合するための幾つかの提案を行う。

クラウス・ボスルマン教授



国際的に著名な「持続可能性」を専門とする環境法研究者であり、「将来世代との衡平」という問題にも早くから精力的に取り組まれてきた。特に、法哲学や法理論といった理論面からのアプローチに注力されており、持続可能性に関する理論研究の第一人者として、国際的に認知されている。

「空間計画と環境保全」

本講演は、空間計画が法体系に占める位置を確認した後に、実務面に焦点を当てながら、空間計画と環境保全を巡る諸問題を扱う。具体的には、オーフス条約遵守委員会がこの問題をどう扱っているのかの分析と、ハンガリーを含む欧州諸国が戦略的環境アセスメント・市民参加・紛争処理にどう取り組んでいるのかの比較を通じて、欧州における空間計画と環境保全の現状を包括的に把握することを試みる。

シヤンドル・フロップ^o上級研究員



オーフス条約遵守委員会委員(2002~08)、ハンガリー議会将来世代オンブズマン(PCFG)(2008~11)を歴任なさった、ハンガリーを代表する環境法専門家。PCFG時代には、法律家だけでなく幅広い科学者を含むチームを率いており、空間計画を中心に、科学と環境法の調和に関して、幅広く深い知見を有されている。

主催：東北大学大学院法学研究科

東北大学「社会にインパクトある研究 人類社会の将来のための新たな理念の法学・政治学的定立」

共催：早稲田大学比較法研究所

末延財団助成事業 / 早稲田大学特定課題研究助成事業